

# バリウム検査と胃カメラ検査の違い

## 保健現場レポート

日南病院

内科

加藤 雅之

371

今月は、2ヶ月連続掲載企画の2つ目のテーマ、胃がん検診の検査方法について詳しく説明をします。それぞれの検査の長所・短所を知っていただき、今後の健康づくりに役立てましょう。

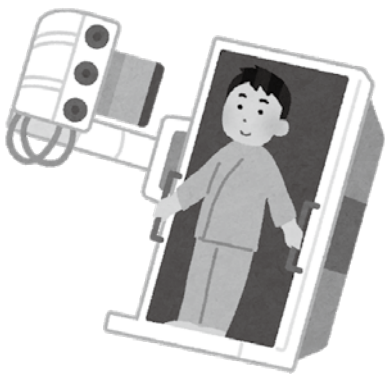
【問い合わせ：日南病院Tel 8 2 - 1 2 3 5】

日南病院内科医師の加藤です。今月号ではバリウム検査と胃カメラ検査の違いについてお話しします。



### 『バリウム検査』とは？

「バリウム検査」とは、バリウム（造影剤）とX線（レントゲン）を使用して食道・胃・十二指腸の内部を観察する検査です。検査台の上で体の向きを変えながらX線を照射し、バリウムの流れや食道・胃の動きを観察します。胃の病気は、胃袋の内側の部分（胃粘膜）が盛り上がったたり、凹んだりします。そのため、バリウムが胃袋の中に入ってくると、盛り上がった病気は、その部分のバリウムがはじけて薄く写し出されます。一方、凹んでいる病気は、そこにバリウムが溜まることにより写し出されます。



### 『胃カメラ検査』とは？

「胃カメラ検査」は、先端にカメラ（内視鏡）が付いた細く柔らかい管（チューブ）を使用し、カメラのモニターを見ながら食道・胃・十二指腸の内部を直接観察する検査です。

内視鏡には口、または鼻から挿入するものがあり、それぞれ「経口内視鏡」「経鼻内視鏡」といいます。

胃カメラ検査の一番の特徴は胃の粘膜を直接見ることです。小さな病変が発見でき、同時に組織の一部を採取することもできるため、診断の確定に役立ちます。そのため、バリウム検査で異常があった場合は、二次検査（精密検査）として胃カメラ検査が行われます。



### バリウム検査・胃カメラ検査 長所と短所

バリウム検査	
長所	短所
<ul style="list-style-type: none"> <li>胃全体の形がわかる</li> <li>検査の苦痛が少ない</li> <li>検査費用が安い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小さな病変の発見には不向き</li> <li>放射線被爆がある</li> </ul>
胃カメラ検査	
長所	短所
<ul style="list-style-type: none"> <li>小さな病変の発見に役立つ</li> <li>診断の確定ができる</li> <li>被爆の影響はない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>胃全体像の把握には不向き</li> <li>検査の苦痛が大きい</li> </ul>

現在の胃がん検診は、バリウム検査と胃カメラ検査の両方が推奨されています。つまり、バリウム検査でも、胃カメラ検査でもどちらでも良いということになります。前述の通り、どちらの検査にも長所と短所があり、一概にどちらが良いとは言えません。このため、みなさん一人一人が自分にあった検査方法で定期的な検診を受けることが大切です。

